

2. 若年者一般調査

(1) 基本属性

① 調査票の記入者 (問1)

調査票の記入者は、「本人」が90.3%、「本人の家族」が2.3%となっている。

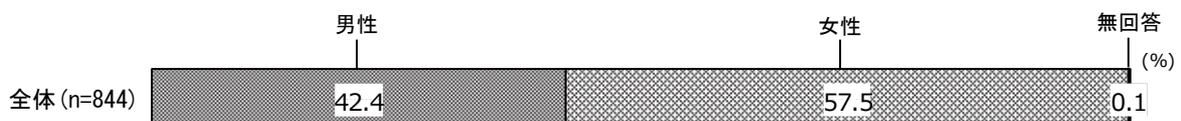
■調査票の記入者



② 性別 (問2)

性別は、「男性」が42.4%、「女性」が57.5%となっている。

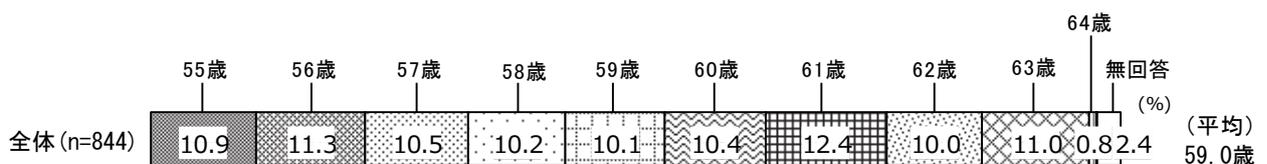
■性別



③ 年齢 (問3)

年齢は、「55～59歳」が53.0%、「60～64歳」が44.6%、平均は59.0歳となっている。

■年齢

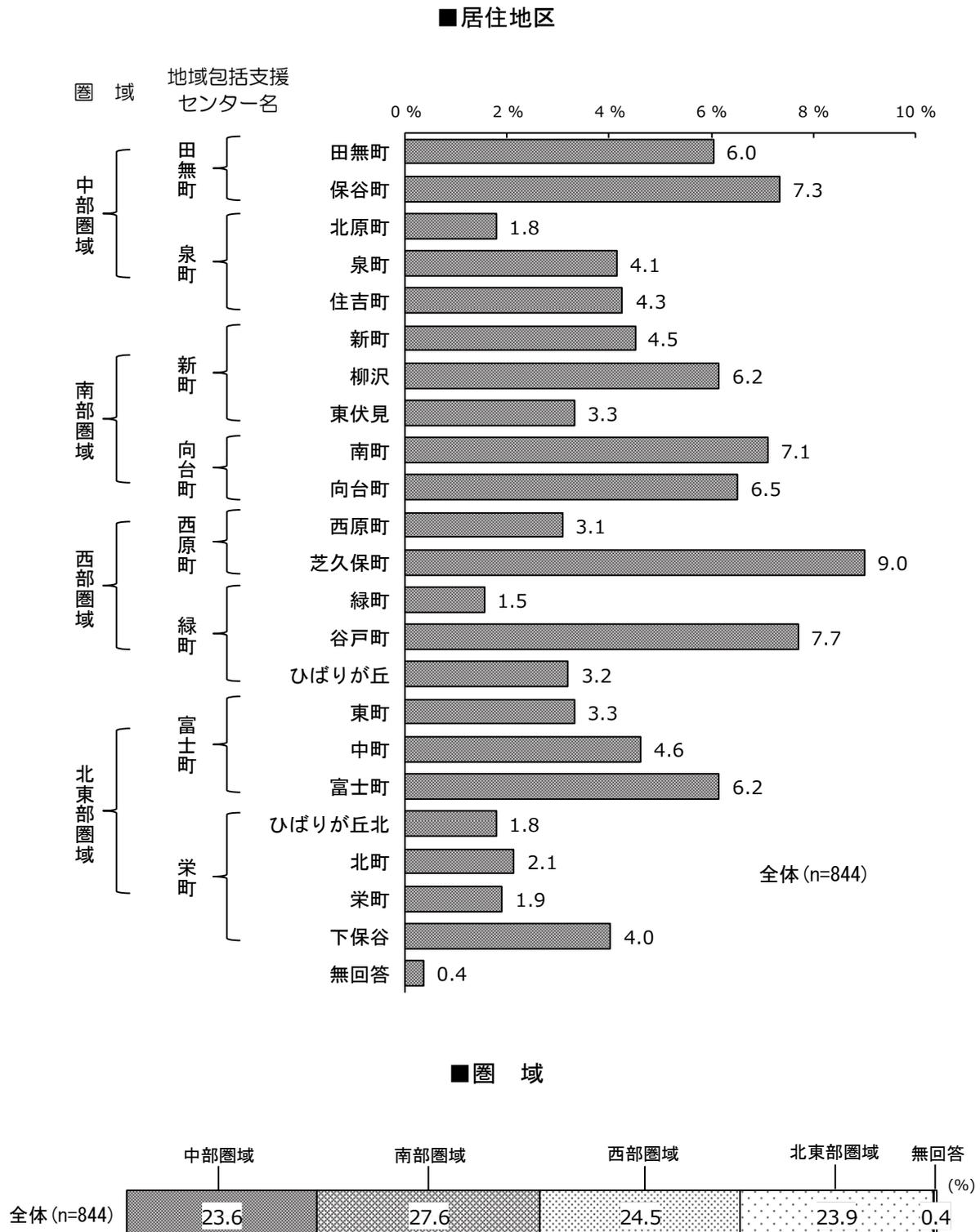


第2章 各調査の結果

④ 居住地区（問4）

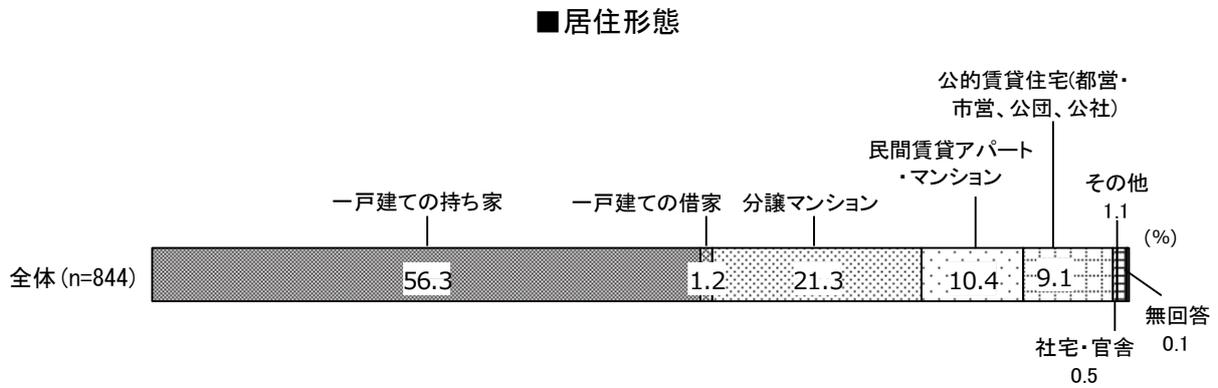
居住地区は、「芝久保町」（9.0%）が最も多く、「谷戸町」（7.7%）、「保谷町」（7.3%）と続いている。

圏域で見ると、「南部圏域」（27.6%）が最も多く、「西部圏域」（24.5%）、「北東部圏域」（23.9%）、「中部圏域」（23.6%）と続いている。



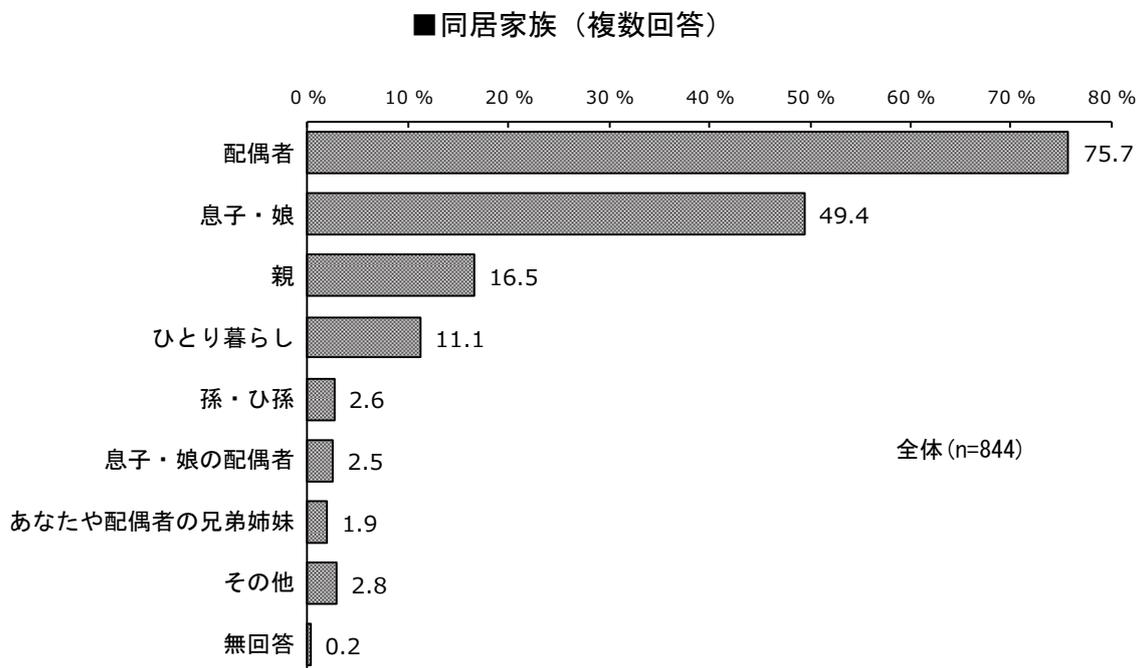
⑤ 居住形態（問5）

居住形態は、「一戸建ての持ち家」(56.3%)が最も多く、「分譲マンション」(21.3%)、「民間賃貸アパート・マンション」(10.4%)と続いている。



⑥ 同居家族（問6）

同居家族は、「配偶者」(75.7%)が最も多く、「息子・娘」(49.4%)、「親」(16.5%)と続いている。

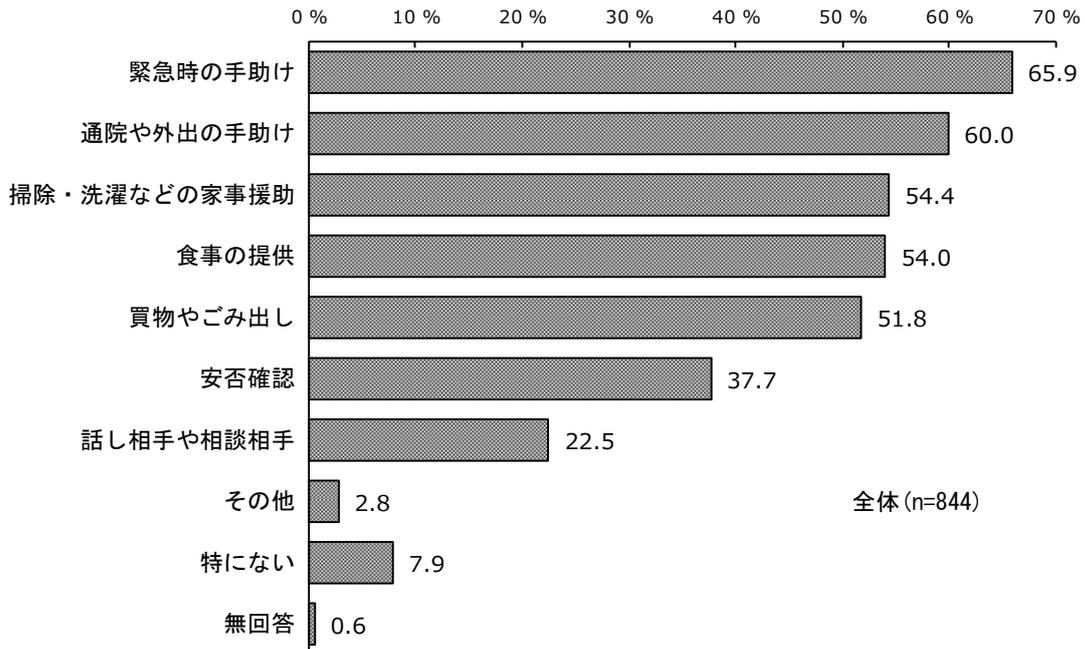


(2) 日ごろの生活

① 不自由な状態になったときに望む生活支援サービス (問7)

不自由な状態になったときに望む生活支援サービスは、「緊急時の手助け」(65.9%)が最も多く、「通院や外出の手助け」(60.0%)、「掃除・洗濯などの家事援助」(54.4%)と続いている。

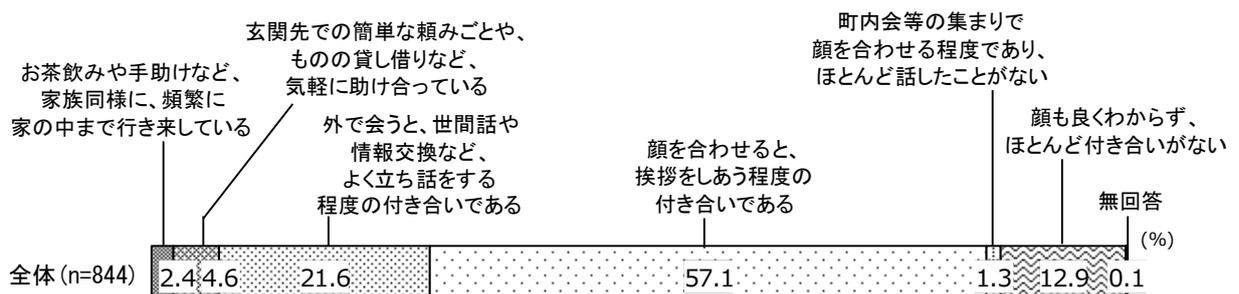
■不自由な状態になったときに望む生活支援サービス (複数回答)



② 近所づきあいの程度 (問8)

近所づきあいの程度は、「顔を合わせると、挨拶をしあう程度の付き合いである」(57.1%)が最も多く、「外で会うと、世間話や情報交換など、よく立ち話をする程度の付き合いである」(21.6%)、「顔も良くわからず、ほとんど付き合いがない」(12.9%)と続いている。

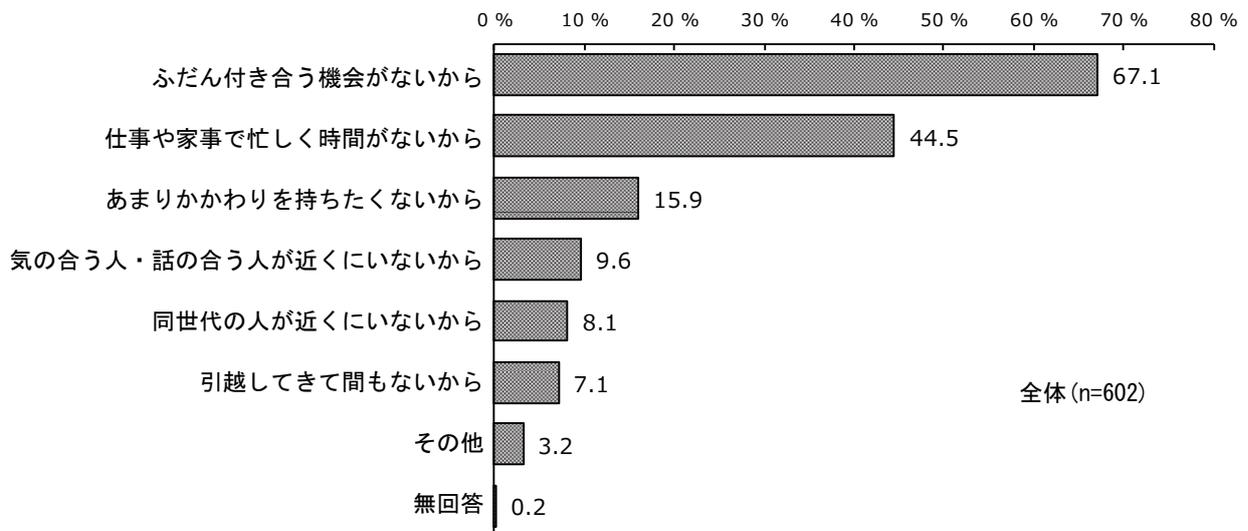
■近所づきあいの程度



③ あまり近所づきあいがない理由（問8付問）

あまり近所づきあいがない人（問8で「顔を合わせると、挨拶をしあう程度の付き合いである」「町内会等の集まりで顔を合わせる程度であり、ほとんど話したことがない」「顔も良くわからず、ほとんど付き合いがない」と回答した人）の付き合いのない理由は、「ふだん付き合う機会がないから」（67.1%）が最も多く、「仕事や家事で忙しく時間がないから」（44.5%）、「あまりかかわりを持ちたくないから」（15.9%）と続いている。

■あまり近所づきあいがない理由（複数回答）
〈あまり近所づきあいがない人〉



④ 地域の行事や活動の参加頻度（問9）

地域の行事や活動の参加頻度は、「まったく参加しない」（44.9%）が最も多く、「頼まれば参加・協力する」（33.4%）、「頼まれてもあまり参加・協力しない」（10.3%）と続いている。

■地域の行事や活動の参加頻度



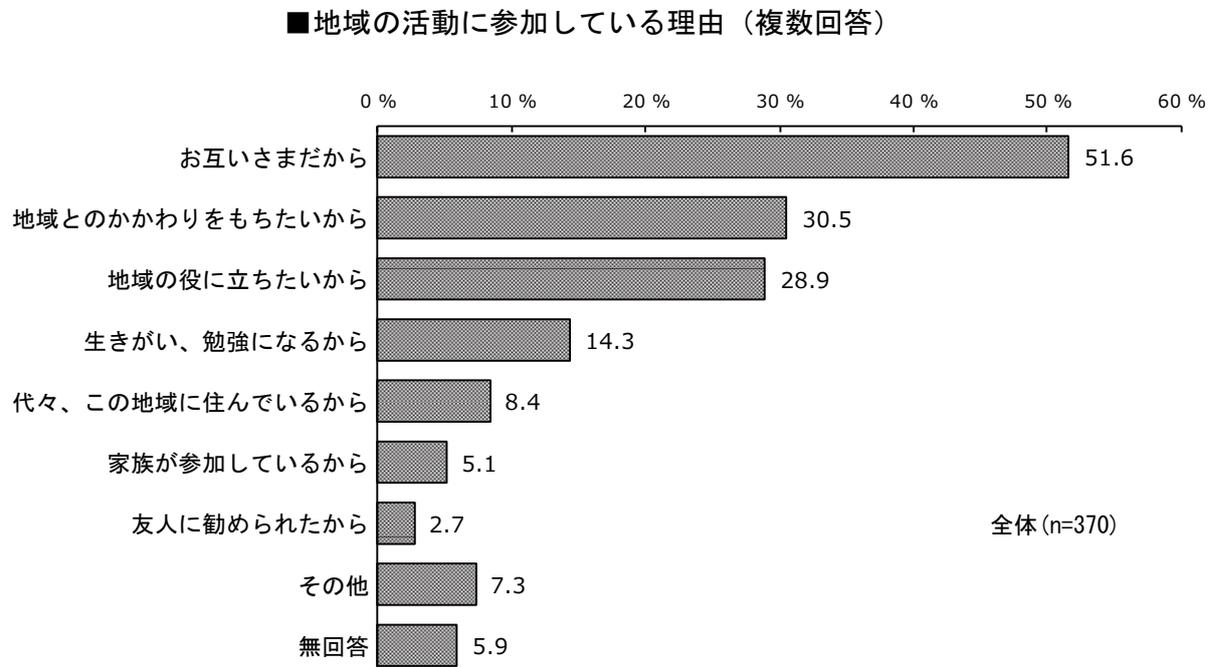
⑤ 地域の行事や活動の具体的内容（問9付問1）

地区の行事や活動に参加・協力する人（問9で「どの行事にも進んで積極的に参加・協力する」「関心があるものについては積極的に参加・協力する」「頼まれれば参加・協力する」と回答した人）の地域の行事や活動の具体的内容を自由記述形式でうかがった。主な意見は、以下のとおりとなっている。

- ・自治会、町内会活動（会合、清掃など）
- ・防災活動、避難訓練
- ・防犯活動、パトロール
- ・お祭り（商店街、神社）
- ・清掃活動、ゴミ拾い
- ・マンション・団地の活動（会合、役員、夏祭り等行事、防災訓練）

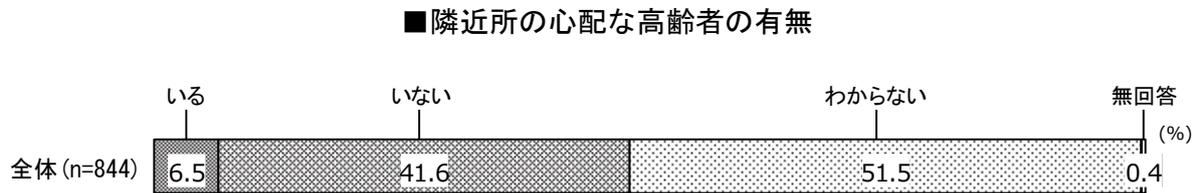
⑥ 地域の活動に参加している理由（問9付問2）

地域の活動に参加している理由は、「お互いさまだから」（51.6%）が最も多く、「地域とのかかわりをもちたいから」（30.5%）、「地域の役に立ちたいから」（28.9%）と続いている。



⑦ 隣近所の心配な高齢者の有無（問10）

隣近所の心配な高齢者の有無は、「いる」が6.5%、「いない」が41.6%、「わからない」が51.5%となっている。

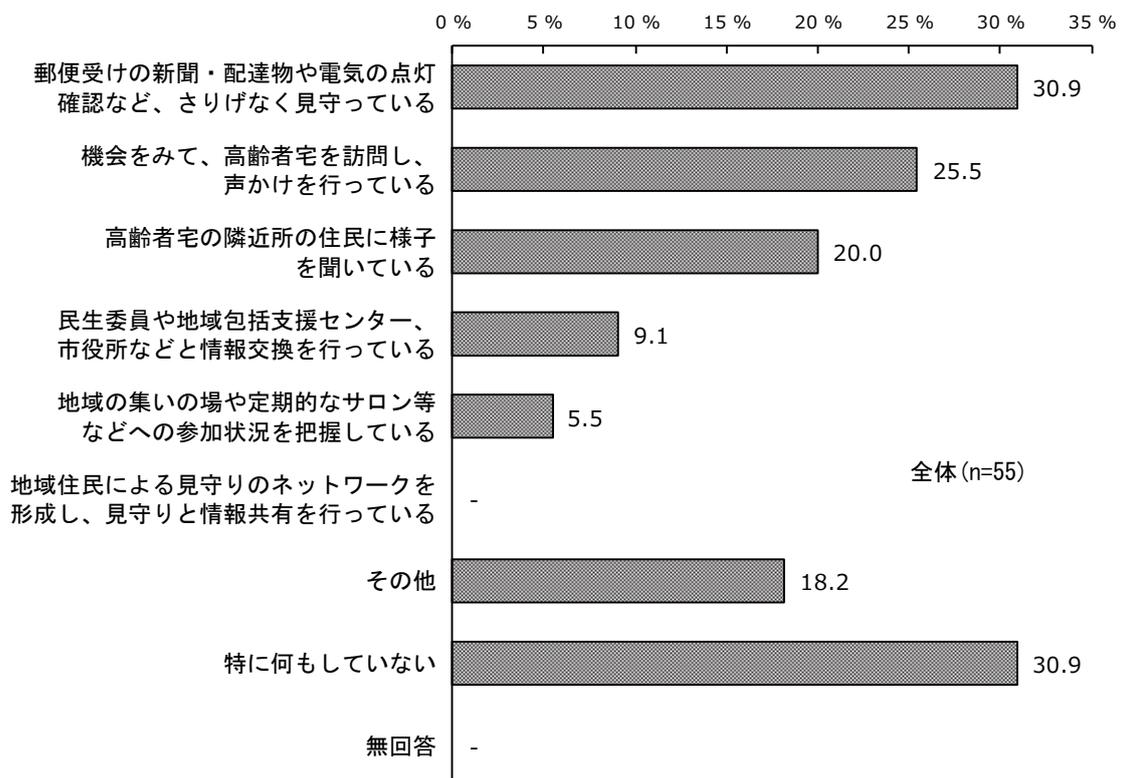


⑧ 隣近所の心配な高齢者の見守り方法（問10付問）

隣近所に心配な高齢者がいる人（問10で「いる」と回答した人）の高齢者の見守り方法は、「郵便受けの新聞・配達物や電気の点灯確認など、さりげなく見守っている」と「特に何もしていない」（ともに30.9%）が最も多く、「機会をみて、高齢者宅を訪問し、声かけを行っている」（25.5%）、「高齢者宅の隣近所の住民に様子を聞いている」（20.0%）と続いている。

■隣近所の心配な高齢者の見守り方法（複数回答）

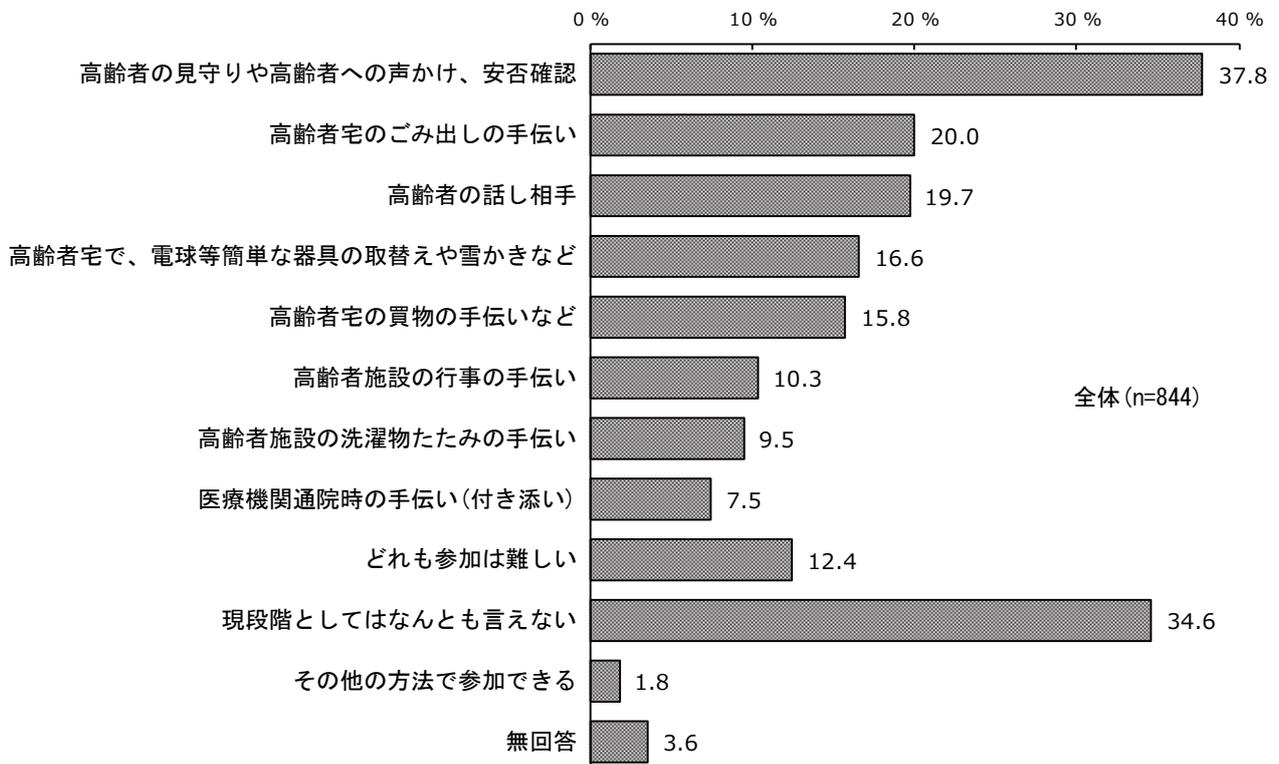
〈隣近所に心配な高齢者がいる人〉



⑨ 参加できる地域活動（問11）

参加できる地域活動は、「高齢者の見守りや高齢者への声かけ、安否確認」（37.8%）が最も多く、「現段階としてはなんとも言えない」（34.6%）、「高齢者宅のごみ出しの手伝い」（20.0%）と続いている。

■参加できる地域活動（複数回答）



性・年齢別にみると、「高齢者宅で、電球等簡単な器具の取替えや雪かきなど」は男性(26.0%)が女性(9.7%)に比べて多く、「高齢者施設の洗濯物たたみの手伝い」は女性(14.4%)が男性(2.8%)に比べて多くなっており、年齢層による違いはみられない。全体に比べて、「高齢者の見守りや高齢者への声かけ、安否確認」「高齢者の話し相手」「高齢者宅のごみ出しの手伝い」「高齢者宅の買物の手伝いなど」は女性の60～64歳で多くなっており、男性の55～59歳で少なくなっている。

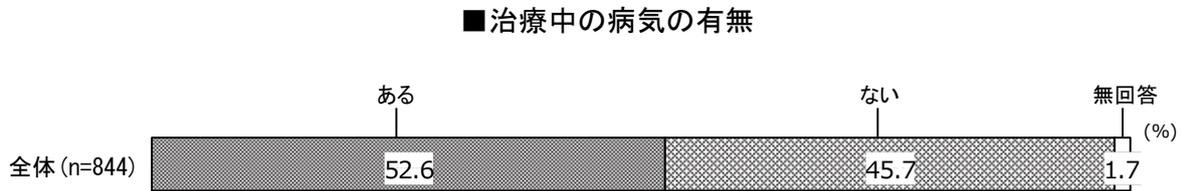
■【性・年齢別】参加できる地域活動（複数回答）

		(%)											
		高齢者の見守りや高齢者への声かけ、安否確認	高齢者宅のごみ出しの手伝い	高齢者の話し相手	高齢者宅で、電球等簡単な器具の取替えや雪かきなど	高齢者宅の買物の手伝い	高齢者施設の行事の手伝い	高齢者施設の洗濯物たたみの手伝い	医療機関通院時の手伝い（付き添い）	どれも参加は難しい	現段階としてはなんとも言いえない	その他の方法で参加できる	無回答
全体	(n=844)	37.8	20.0	19.7	16.6	15.8	10.3	9.5	7.5	12.4	34.6	1.8	3.6
男性	男性計 (n=358)	33.2	13.4	12.8	26.0	11.5	7.5	2.8	6.1	13.1	39.1	1.1	2.8
	55～59歳 (n=186)	32.3	11.3	9.7	25.3	7.0	8.6	2.7	5.4	11.8	42.5	0.5	2.7
	60～64歳 (n=163)	34.4	15.3	15.3	25.8	15.3	6.1	2.5	6.7	15.3	36.2	1.8	2.5
	無回答 (n=9)	33.3	22.2	33.3	44.4	33.3	11.1	11.1	11.1	-	22.2	-	11.1
女性	女性計 (n=485)	41.2	24.9	24.7	9.7	19.0	12.4	14.4	8.5	12.0	31.1	2.3	4.1
	55～59歳 (n=260)	35.0	23.1	20.0	9.6	18.1	11.9	15.0	9.2	13.5	36.2	3.5	3.5
	60～64歳 (n=214)	49.1	28.0	29.9	9.8	21.0	13.1	14.5	7.9	9.8	25.7	0.9	3.7
	無回答 (n=11)	36.4	9.1	36.4	9.1	-	9.1	-	-	18.2	18.2	-	27.3

(3) 医療の状況

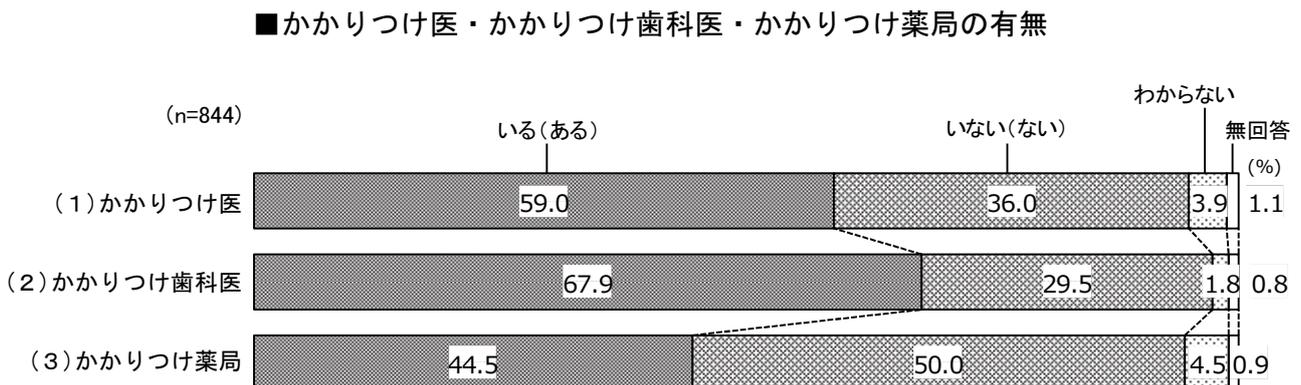
① 治療中の病気の有無 (問 12)

治療中の病気の有無は、「ある」が52.6%、「ない」が45.7%となっている。



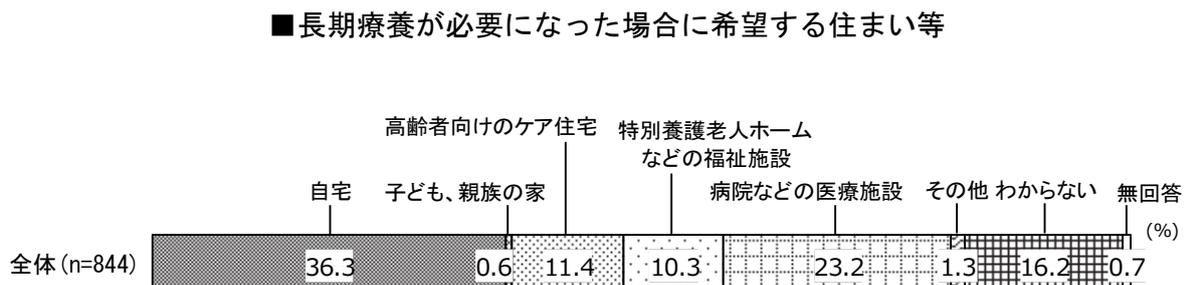
② かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の有無 (問 13)

かかりつけ医が「いる」は59.0%、かかりつけ歯科医が「いる」は67.9%、かかりつけ薬局が「ある」は44.5%となっている。



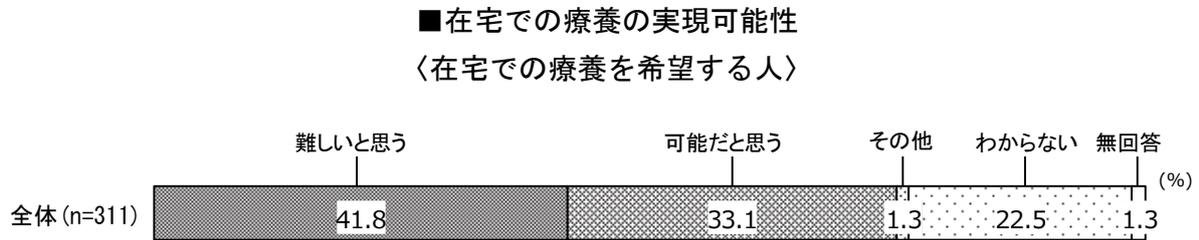
③ 長期療養が必要になった場合に希望する住まい等 (問 14)

長期療養が必要になった場合に希望する住まい等は、「自宅」(36.3%)が最も多く、「病院などの医療施設」(23.2%)、「わからない」(16.2%)と続いている。



④ 在宅での療養の実現可能性（問 14 付問 1）

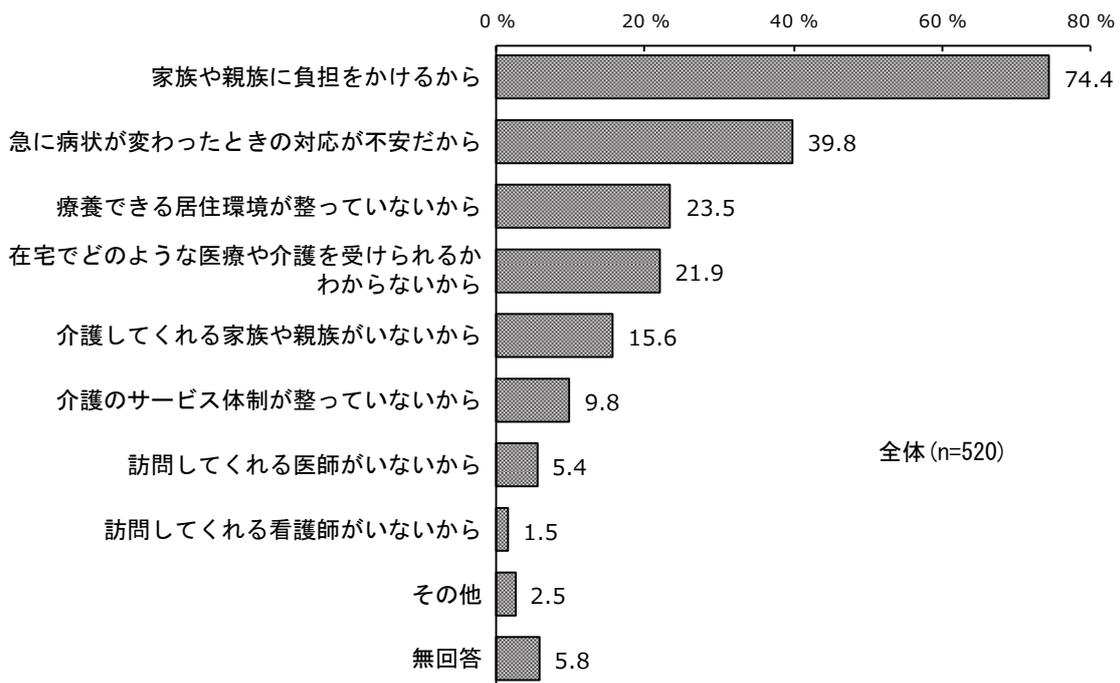
在宅での療養を希望する人（問 14 で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人）の実現可能性は、「難しいと思う」（41.8%）が最も多く、「可能だと思う」（33.1%）、「わからない」（22.5%）と続いている。



⑤ 在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（問 14 付問 2）

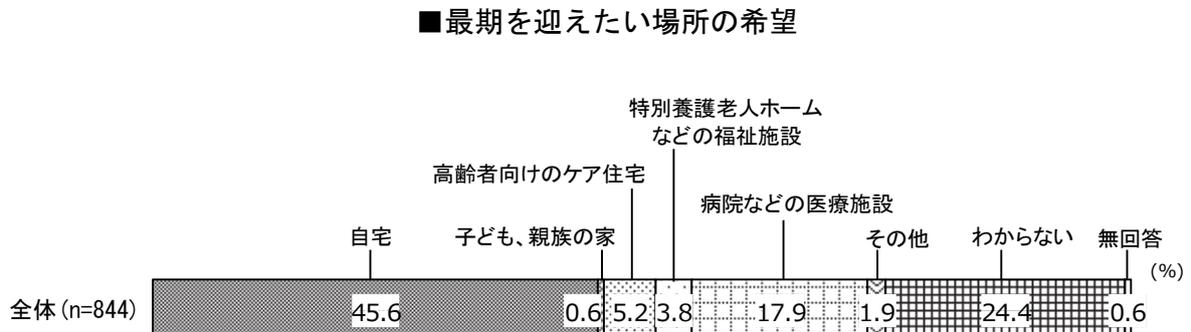
在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う人（問 14 で「高齢者向けのケア住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」「病院などの医療施設」「その他」、問 14 付問 1 で「難しいと思う」と回答した人）の理由は、「家族や親族に負担をかけるから」（74.4%）が最も多く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（39.8%）、「療養できる居住環境が整っていないから」（23.5%）と続いている。

■在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（複数回答（3つまで））
〈在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う人〉



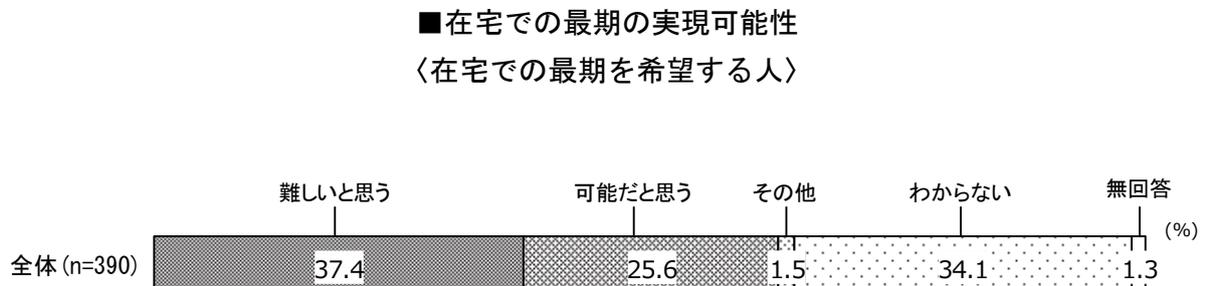
⑥ 最期を迎えたい場所の希望（問15）

最期を迎えたい場所の希望は、「自宅」（45.6%）が最も多く、「わからない」（24.4%）、「病院などの医療施設」（17.9%）と続いている。



⑦ 在宅での最期の実現可能性（問15付問1）

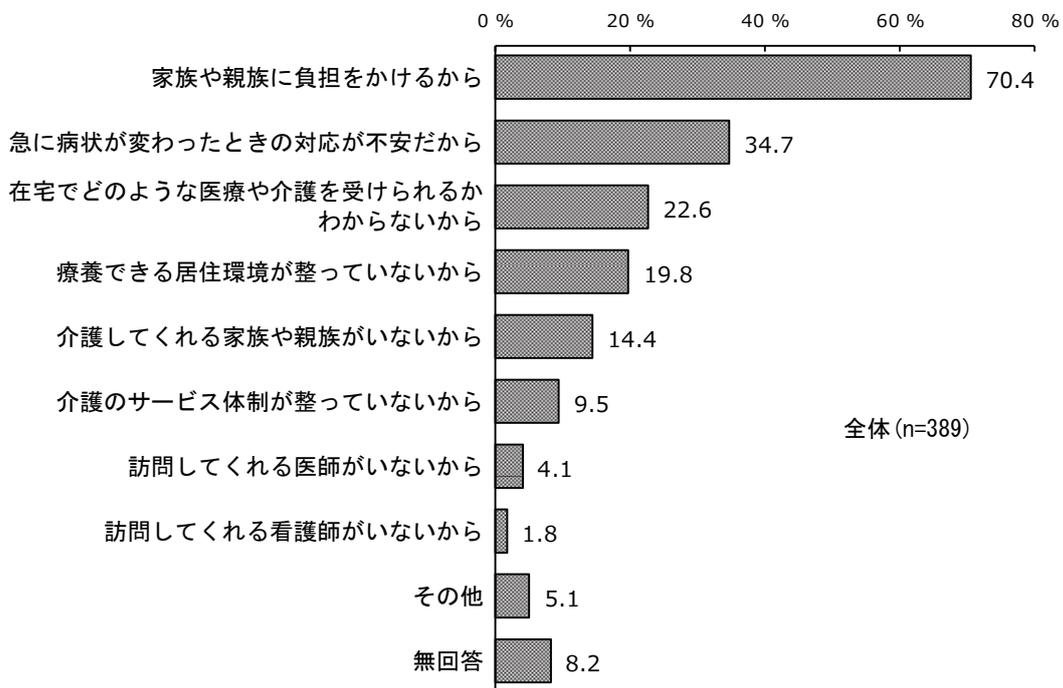
在宅での最期を希望する人（問15で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人）の実現可能性は、「難しいと思う」（37.4%）が最も多く、「わからない」（34.1%）、「可能だと思う」（25.6%）と続いている。



⑧ 在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（問 15 付問 2）

在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う人（問 15 で「高齢者向けのケア住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」「病院などの医療施設」「その他」、問 15 付問 1 で「難しいと思う」と回答した人）の理由は、「家族や親族に負担をかけるから」（70.4%）が最も多く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（34.7%）、「在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからないから」（22.6%）と続いている。

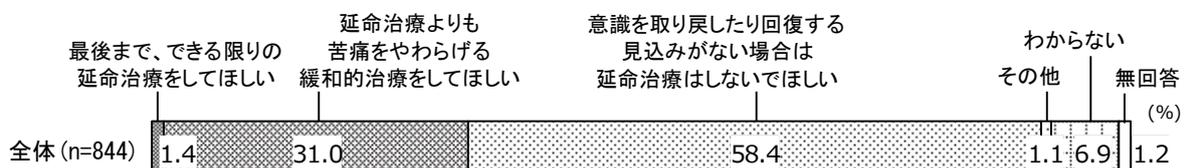
■在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（複数回答（3つまで））
 〈在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う人〉



⑨ 延命治療についての希望（問 16）

延命治療についての希望は、「意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は延命治療はしないでほしい」（58.4%）が最も多く、「延命治療よりも苦痛をやわらげる緩和的治療をしてほしい」（31.0%）、「わからない」（6.9%）と続いている。

■延命治療についての希望



⑩ 長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無（問17）

長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無は、「伝えている」が36.6%、「伝えていない」が58.2%となっている。

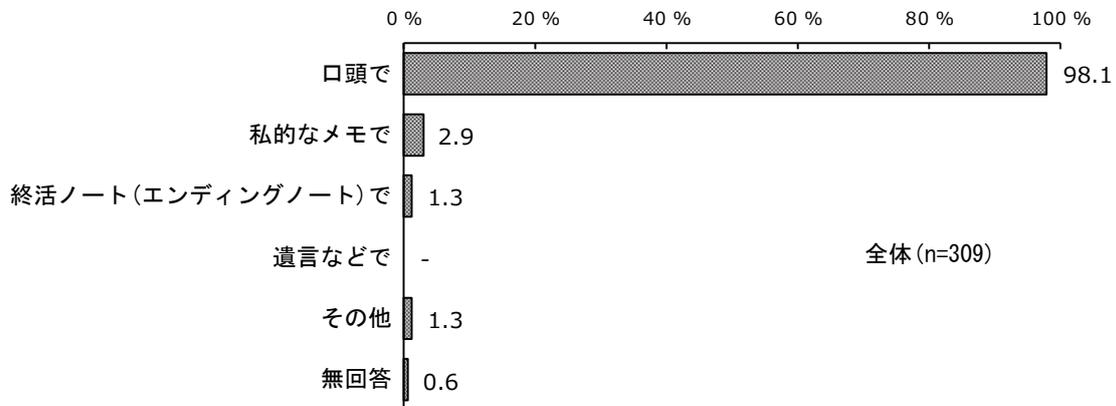
■長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無



⑪ 長期療養、終末期、延命治療についての意向の伝え方（問17付問1）

長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えている人（問17で「伝えている」と回答した人）の伝え方は、「口頭で」（98.1%）が最も多くなっている。

■長期療養、終末期、延命治療についての意向の伝え方（複数回答）
〈長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えている人〉

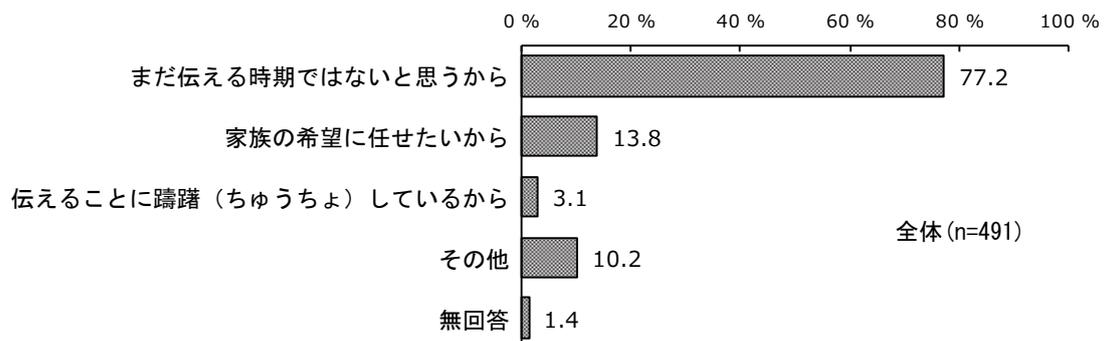


⑫ 長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない理由（問 17 付問 2）

長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない人（問 17 で「伝えていない」と回答した人）の理由は、「まだ伝える時期ではないと思うから」（77.2%）が最も多く、次いで「家族の希望に任せたいから」（13.8%）が多くなっている。

■長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない理由（複数回答）

〈長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない人〉

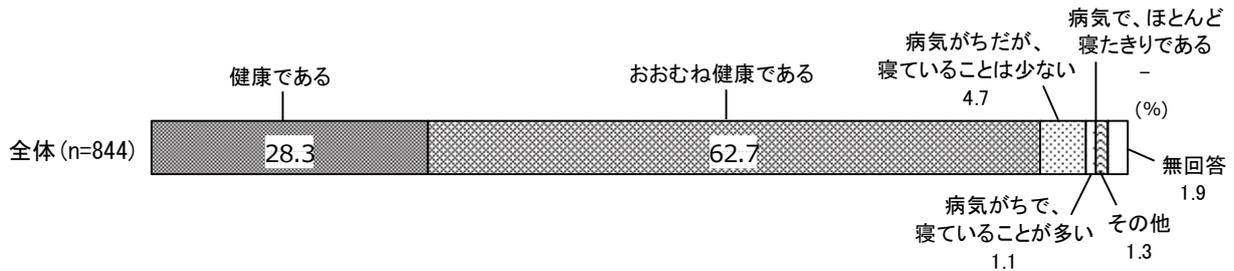


(4) 健康管理

① 主観的健康感 (問 18)

主観的健康感は、「健康である」(28.3%)と「おおむね健康である」(62.7%)で約9割を占めている。

■主観的健康感



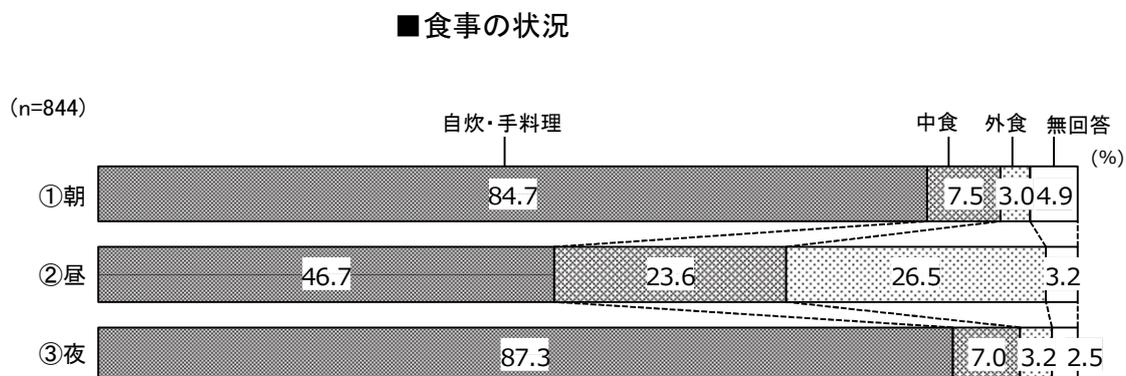
性・年齢別にみると、“健康”（「健康である」「おおむね健康である」の合計）は、いずれの性別、年齢層においても9割程度となっているが、「健康である」は女性(32.2%)が男性(23.2%)に比べて多くなっている。

■【性・年齢別】主観的健康感

		主観的健康感 (%)							
		健康である	おおむね健康である	病気がちだが、寝ていることは少ない	病気がちで、寝ていることが多い	病気で、ほとんど寝たきりである	その他	無回答	
全体	(n=844)	28.3	62.7	4.7	1.1	-	1.3	1.9	
男性	男性計	(n=358)	23.2	68.2	4.7	1.4	-	1.4	1.1
	55~59歳	(n=186)	24.7	66.7	3.8	2.2	-	1.6	1.1
	60~64歳	(n=163)	22.1	68.7	6.1	0.6	-	1.2	1.2
	無回答	(n=9)	11.1	88.9	-	-	-	-	-
女性	女性計	(n=485)	32.2	58.6	4.7	0.8	-	1.2	2.5
	55~59歳	(n=260)	31.9	59.6	5.0	1.2	-	1.2	1.2
	60~64歳	(n=214)	31.3	57.9	4.7	0.5	-	1.4	4.2
	無回答	(n=11)	54.5	45.5	-	-	-	-	-

② 食事の状況（問 19）

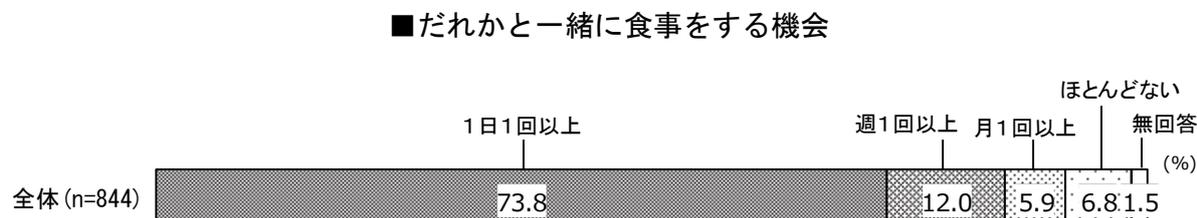
食事の状況は、朝と夜は「自炊・手料理」が8割台半ばを占めており、昼は「自炊・手料理」が46.7%、「中食」が23.6%、「外食」が26.5%となっている。



※「中食」：持ち帰ってすぐに食べられる総菜やコンビニ弁当などによる食事

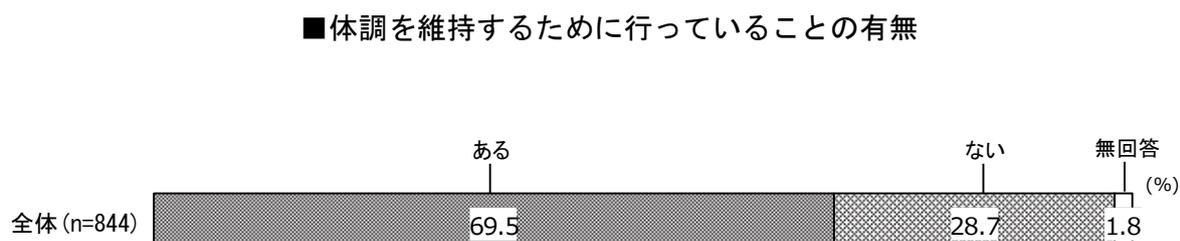
③ だれかと一緒に食事をする機会（問 20）

だれかと一緒に食事をする機会は、「1日1回以上」(73.8%)が最も多く、「週1回以上」(12.0%)、「ほとんどない」(6.8%)と続いている。



④ 体調を維持するために行っていることの有無（問 21）

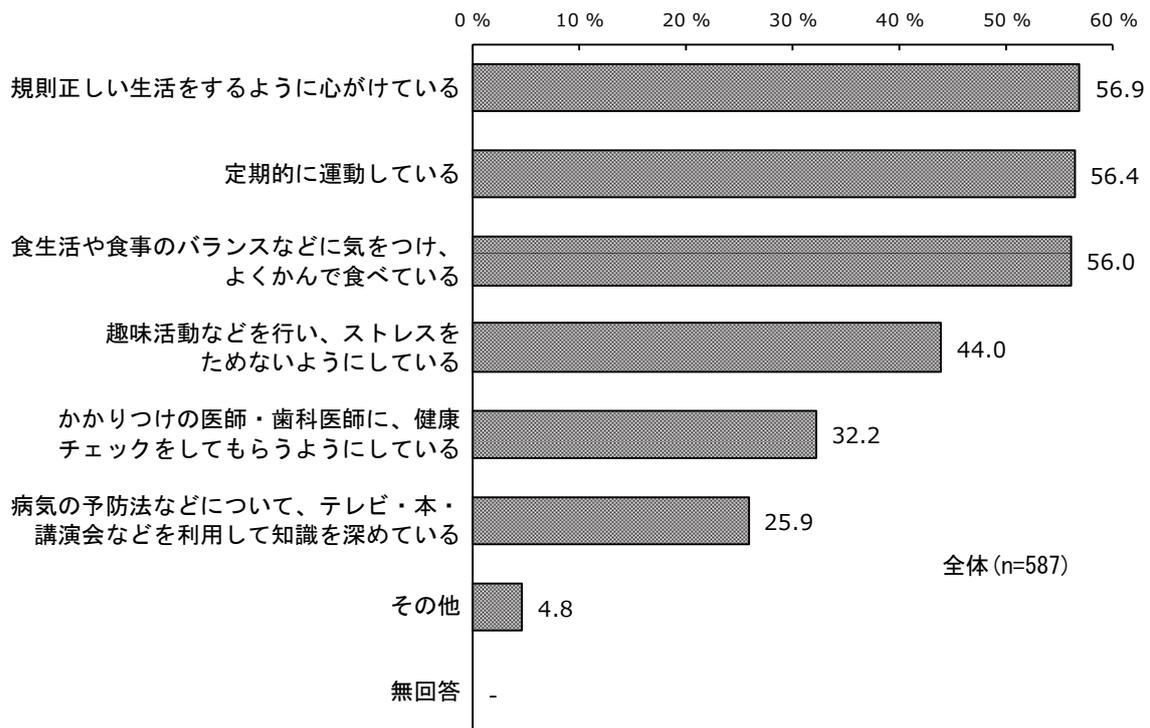
体調を維持するために行っていることの有無は、「ある」が69.5%、「ない」が28.7%となっている。



⑤ 体調を維持するために行っていること（問21付問）

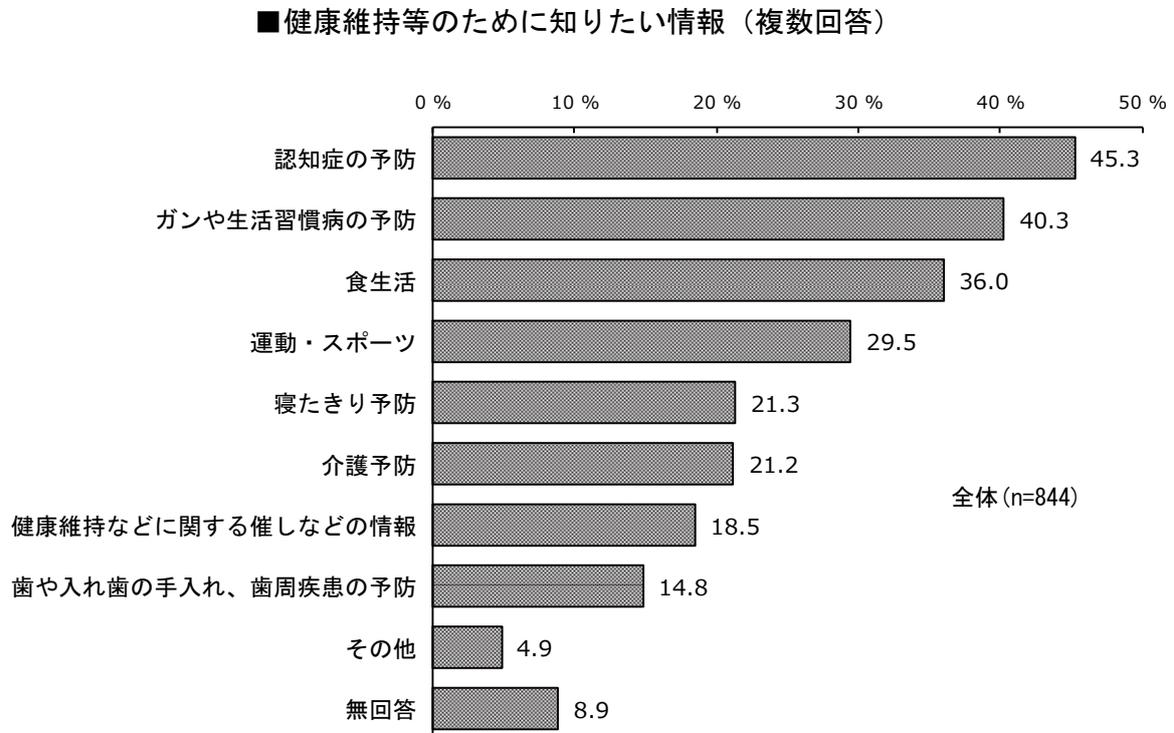
体調を維持するために行っていることがある人（問21で「ある」と回答した人）の行っていることは、「規則正しい生活をするように心がけている」（56.9%）が最も多く、「定期的に運動している」（56.4%）、「食生活や食事のバランスなどに気をつけ、よくかんで食べている」（56.0%）と続いている。

■体調を維持するために行っていること（複数回答）
 〈体調を維持するために行っていることがある人〉



⑥ 健康維持等のために知りたい情報（問 22）

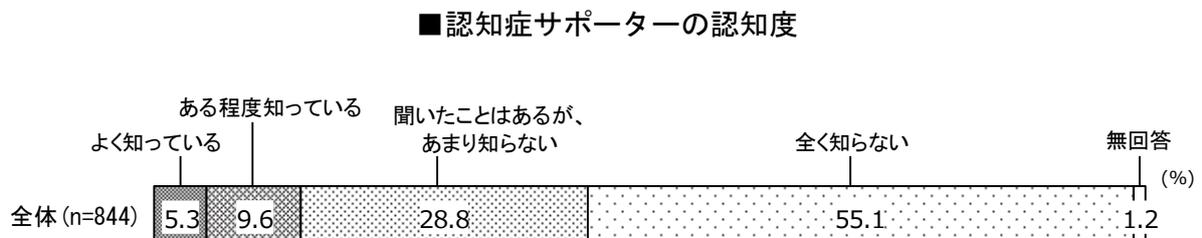
健康維持等のために知りたい情報は、「認知症の予防」（45.3%）が最も多く、「ガンや生活習慣病の予防」（40.3%）、「食生活」（36.0%）と続いている。



(5) 認知症や権利擁護

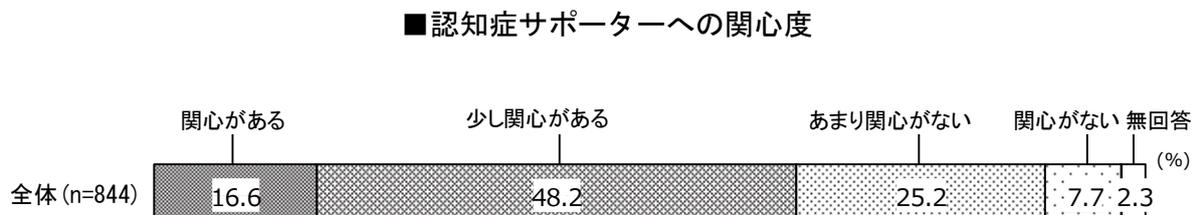
① 認知症サポーターの認知度 (問 23)

認知症サポーターの認知度は、「よく知っている」が 5.3%、「ある程度知っている」が 9.6%、「聞いたことはあるが、あまり知らない」が 28.8%、「全く知らない」が 55.1%となっている。



② 認知症サポーターへの関心度 (問 24)

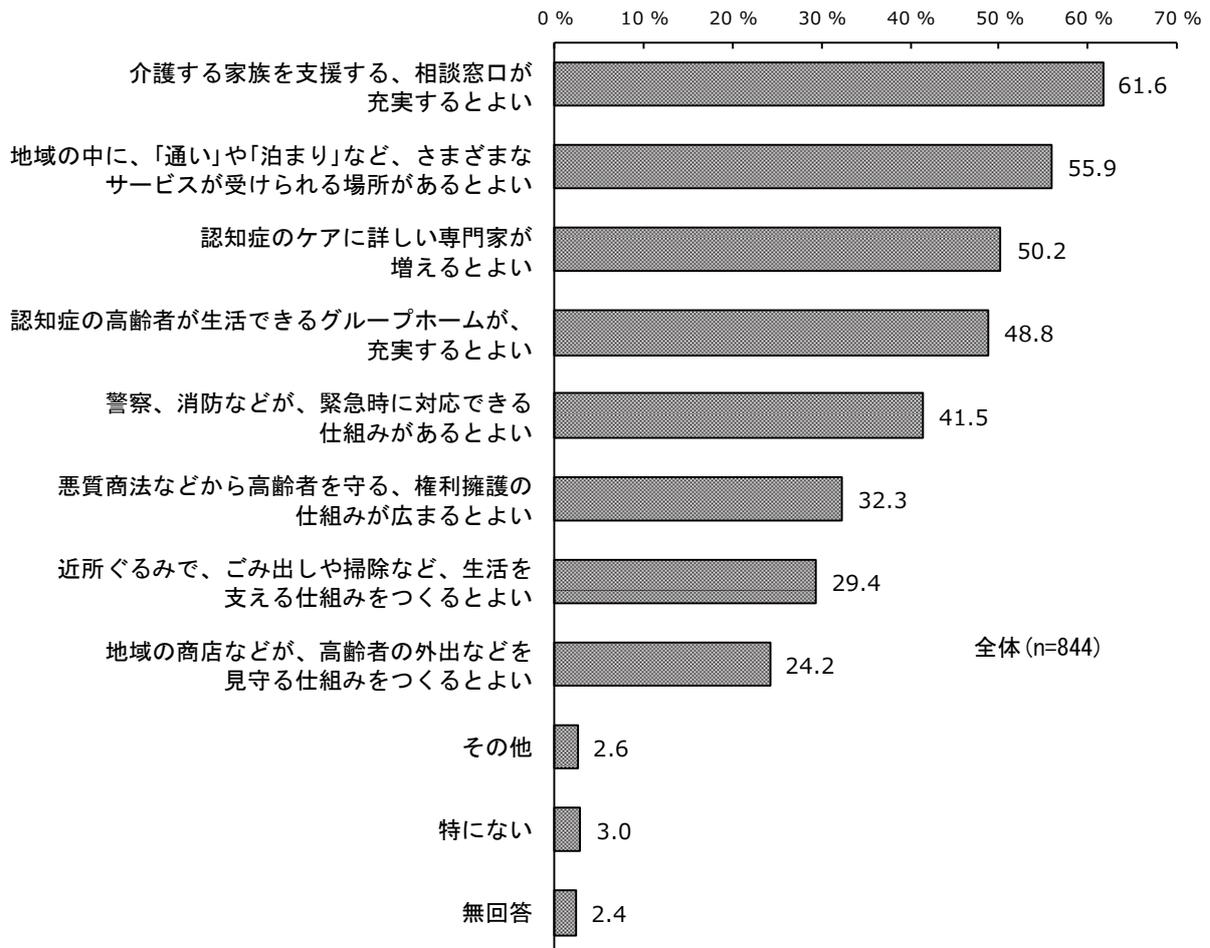
認知症サポーターへの関心度は、「関心がある」が 16.6%、「少し関心がある」が 48.2%、「あまり関心がない」が 25.2%、「関心がない」が 7.7%となっている。



③ 認知症になっても暮らしていけるためのまちづくりがあるとよいこと（問 25）

認知症になっても暮らしていけるためのまちづくりがあるとよいことは、「介護する家族を支援する、相談窓口が充実するとよい」（61.6%）が最も多く、「地域の中に、「通い」や「泊まり」など、さまざまなサービスが受けられる場所があるとよい」（55.9%）、「認知症のケアに詳しい専門家が増えるとよい」（50.2%）と続いている。

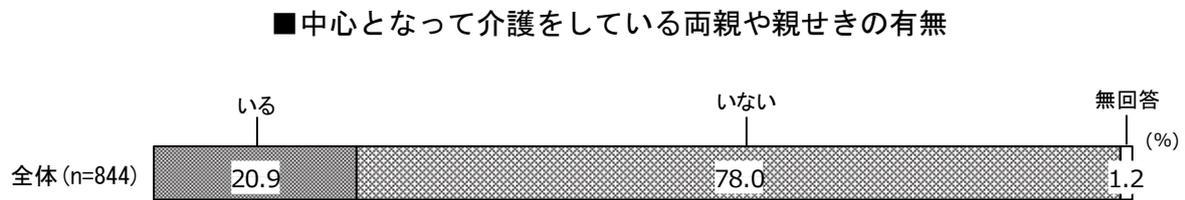
■ 認知症になっても暮らしていけるためのまちづくりがあるとよいこと（複数回答）



(6) 介護の経験

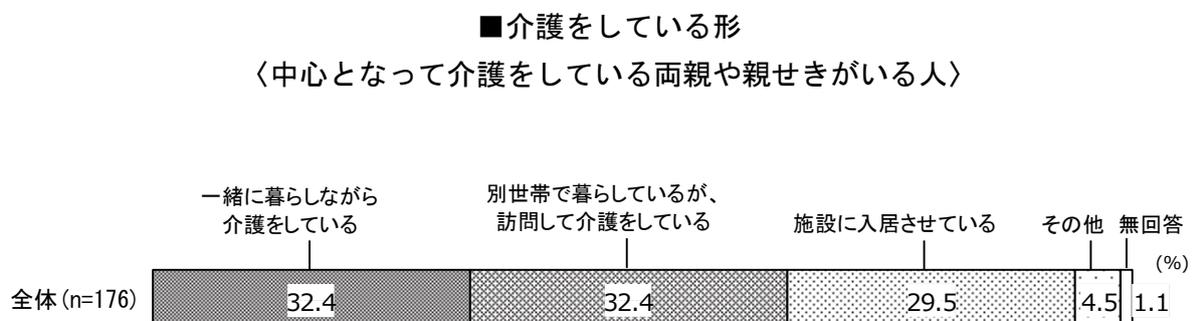
① 中心となって介護をしている両親や親せきの有無 (問 26)

中心となって介護をしている両親や親せきの有無は、「いる」が 20.9%、「いない」が 78.0%となっている。



② 介護をしている形 (問 26 付問 1)

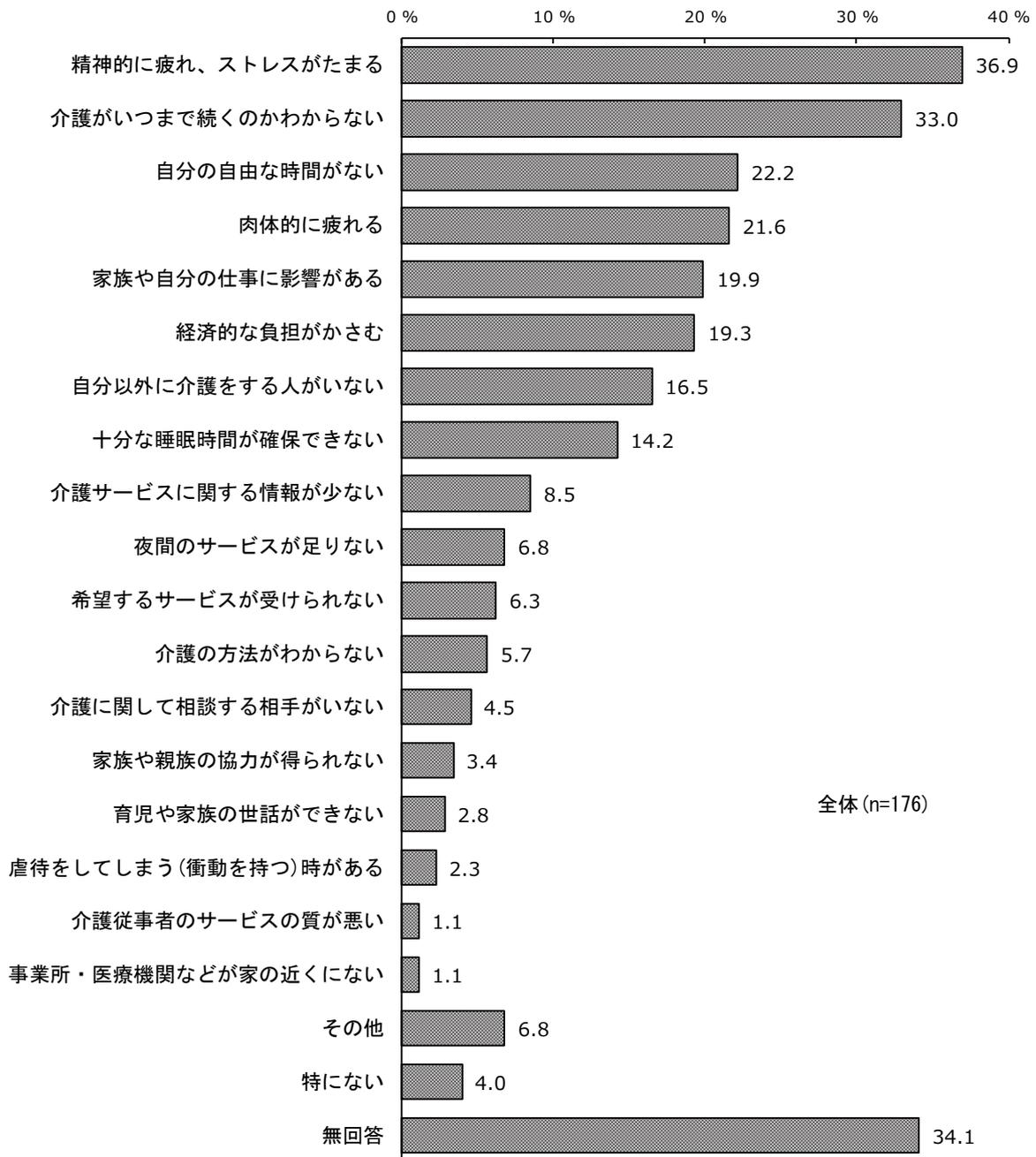
介護をしている両親や親せきがいる人 (問 26 で「いる」と回答した人) の介護をしている形は、「一緒に暮らしながら介護をしている」と「別世帯で暮らしているが、訪問して介護をしている」(ともに 32.4%) が最も多く、「施設に入居させている」(29.5%) と続いている。



③ 介護をするうえでの困りごと（問 26 付問 2）

介護をしている両親や親せきがいる人（問 26 で「いる」と回答した人）の介護をするうえでの困りごとは、「精神的に疲れ、ストレスがたまる」（36.9%）が最も多く、「介護がいつまで続くのかわからない」（33.0%）、「自分の自由な時間がない」（22.2%）と続いている。

■介護をするうえでの困りごと（複数回答）
 〈中心となって介護をしている両親や親せきがいる人〉

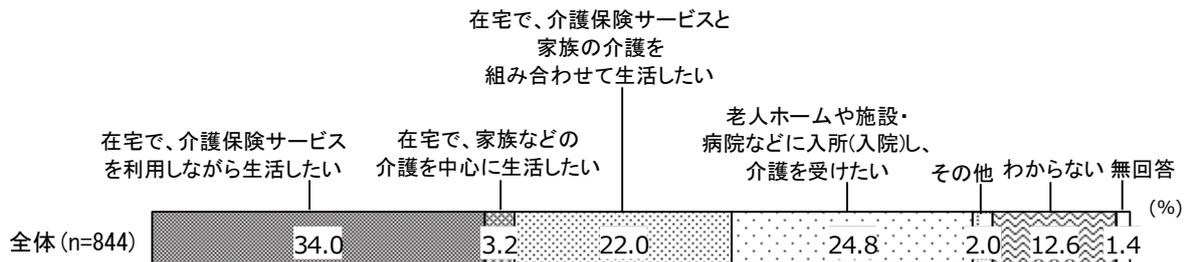


(7) 介護保険制度

① 介護が必要になった場合に生活したい場所 (問 27)

介護が必要になった場合に生活したい場所は、「在宅で、介護保険サービスを利用しながら生活したい」(34.0%) が最も多く、「老人ホームや施設・病院などに入所(入院)し、介護を受けたい」(24.8%)、「在宅で、介護保険サービスと家族の介護を組み合わせ生活したい」(22.0%)と続いている。

■介護が必要になった場合に生活したい場所



平成 25 年度調査と比較すると、「在宅で、介護保険サービスを利用しながら生活したい」は 5.0 ポイント増加し、「老人ホームや施設・病院などに入所(入院)し、介護を受けたい」は 5.5 ポイント減少している。

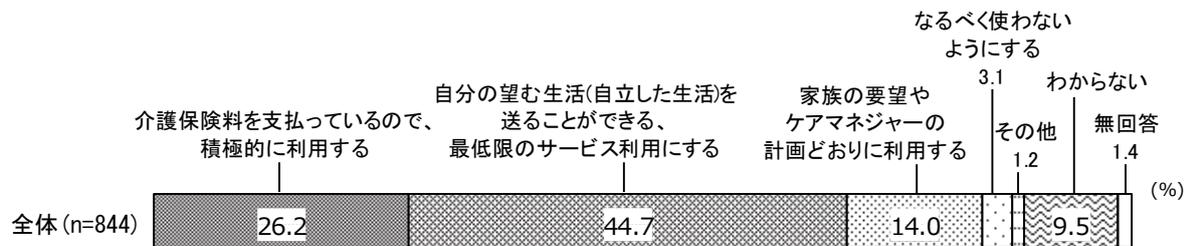
■【前回比較】介護が必要になった場合に生活したい場所

	在宅で、介護保険サービスを利用しながら生活したい	在宅で、家族などの介護を中心に生活したい	在宅で、介護保険サービスと家族の介護を組み合わせ生活したい	老人ホームや施設・病院などに入所(入院)し、介護を受けたい	その他	わからない	無回答
平成28年度調査 (n=844)	34.0	3.2	22.0	24.8	2.0	12.6	1.4
平成25年度調査 (n=775)	29.0	3.1	21.4	30.3	2.1	12.0	2.1

② 介護保険サービスの利用についての考え（問 28）

介護保険サービスの利用についての考えは、「自分の望む生活（自立した生活）を送ることができる、最低限のサービス利用にする」（44.7%）が最も多く、「介護保険料を支払っているのに、積極的に利用する」（26.2%）、「家族の要望やケアマネジャーの計画どおりに利用する」（14.0%）と続いている。

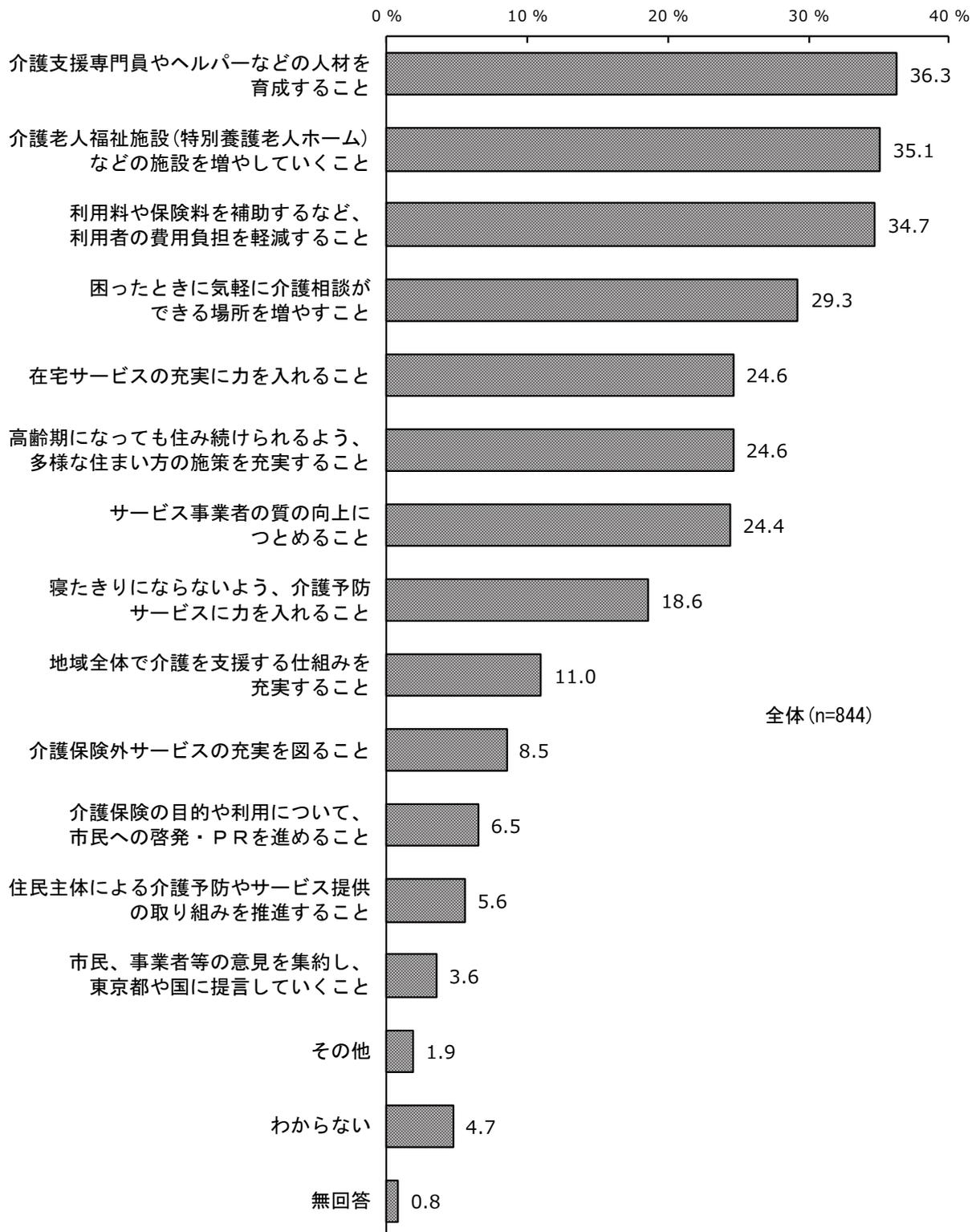
■介護保険サービスの利用についての考え



③ 介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと（問29）

介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきことは、「介護支援専門員やヘルパーなどの人材を育成すること」（36.3%）が最も多く、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）などの施設を増やしていくこと」（35.1%）、「利用料や保険料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減すること」（34.7%）と続いている。

■介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと（複数回答（3つまで））

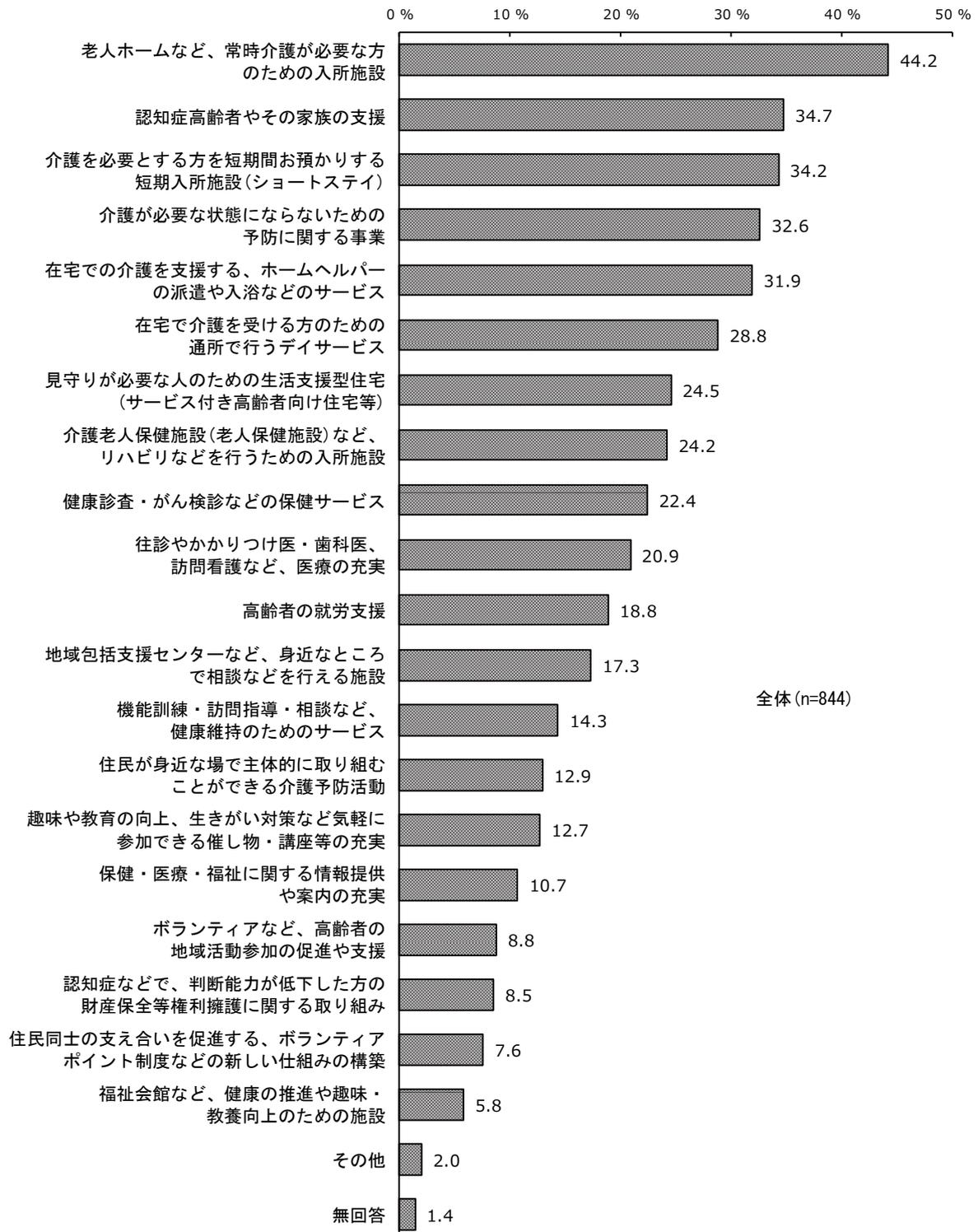


(8) 市の介護保険・保健福祉サービス

① 市が取り組むべき介護保険・保健福祉サービス (問 30)

市が取り組むべき介護保険・保健福祉サービスは、「老人ホームなど、常時介護が必要な方のための入所施設」(44.2%)が最も多く、「認知症高齢者やその家族の支援」(34.7%)、「介護を必要とする方を短期間お預かりする短期入所施設(ショートステイ)」(34.2%)と続いている。

■市が取り組むべき介護保険・保健福祉サービス (複数回答 (5つまで))

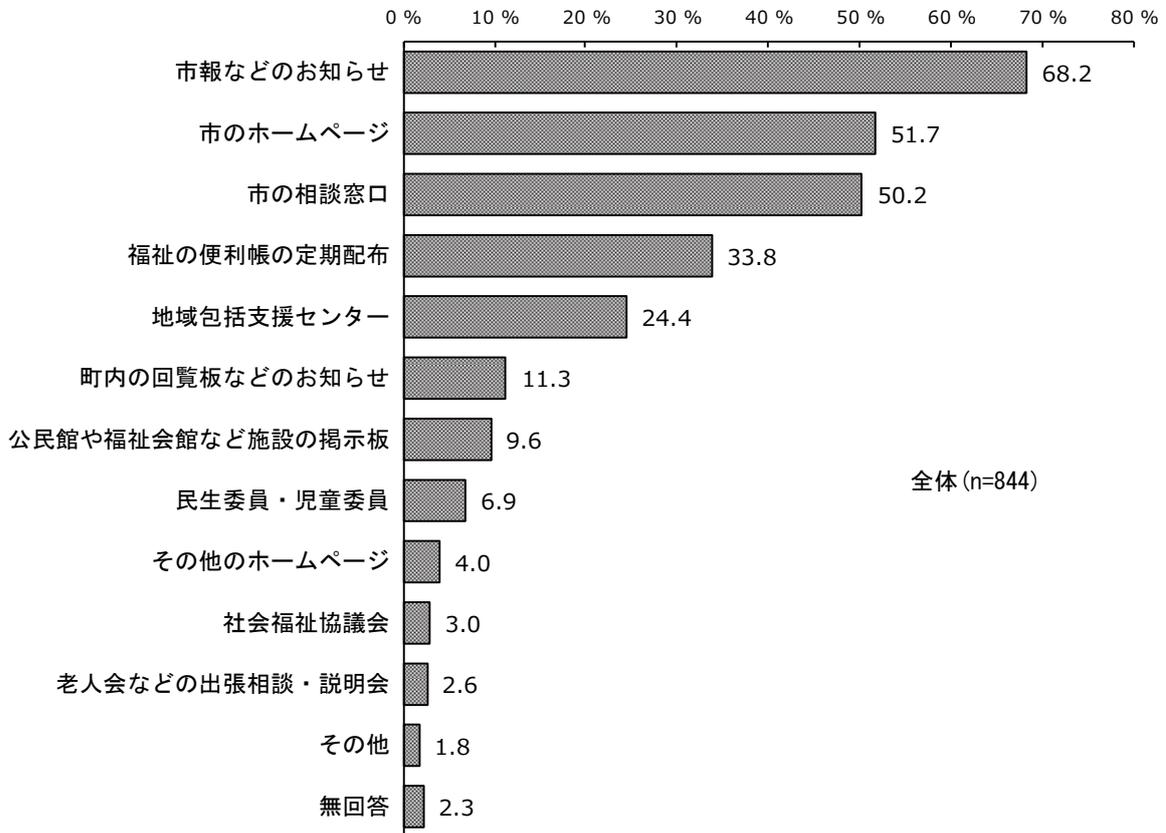


第2章 各調査の結果

② 福祉に関する情報の希望する入手方法（問31）

福祉に関する情報の希望する入手方法は、「市報などのお知らせ」（68.2%）が最も多く、「市のホームページ」（51.7%）、「市の相談窓口」（50.2%）と続いている。

■福祉に関する情報の希望する入手方法（複数回答）



平成25年度調査と比較すると、「市のホームページ」が7.8ポイント増加している。

■【前回比較】福祉に関する情報の希望する入手方法（複数回答）

	市報などのお知らせ	市のホームページ	市の相談窓口	福祉の便利帳の定期配布	地域包括支援センター	町内の回覧板などのお知らせ	施設の掲示板	公民館や福祉会館など	民生委員・児童委員	その他のホームページ	社会福祉協議会	老人会などの出張相談・説明会	その他	無回答
平成28年度調査 (n=844)	68.2	51.7	50.2	33.8	24.4	11.3	9.6	6.9	4.0	3.0	2.6	1.8	2.3	
平成25年度調査 (n=775)	68.0	43.9	47.6	34.1	22.3	10.5	8.4	6.1	5.0	4.4	3.9	1.7	3.2	

③ 高齢者保健福祉サービス、介護保険制度への意見・要望（問 32）

高齢者保健福祉サービス、介護保険制度について、自由記述形式でうかがい、内容ごとに分類・整理を行った。主な意見は、以下のとおりとなっている。

◇情報提供・相談について

- ・どのような福祉サービスがあるのか知りたい。
- ・介護保険制度について知識がない。介護休暇についても、会社は教えてくれることがなく、どこかで制度について教えてくれる場がほしい。
- ・庁舎、出張所、会館、公民館と情報を提供される施設は限られており、その周辺に住む市民以外は、同じ西東京市民なのに蚊帳の外のような感じがしている。情報を波及できる手段を考えてほしい。
- ・ホームページの内容をさらに詳しく充実した、分かりやすい内容にしてほしい。
- ・パソコンが使えないため、情報の伝達方法を考えてほしい。
- ・相談窓口の一本化をお願いしたい。

◇仕事について

- ・働けるうちは、働ける環境をつくってほしい。
- ・年を取ってもなるべく皆働いた方がいいと思う。

◇ボランティア活動について

- ・ボランティア活動を継続できるような仕組みづくりが必要。
- ・ボランティアで活動することは素晴らしいことだが、それに頼るのは良くないと思う。ボランティアに責任を持たせないでほしい。

◇地域のつながりについて

- ・町会がないため、様々な点で不安。災害時における高齢者の援助等も含めて、市内全域での福祉サービスをお願いしたい。

◇介護予防について

- ・スポーツセンターの無料対象年齢を 85 歳以上からもう少し下げられないか。

◇認知症について

- ・徘徊している高齢者を見つけるために、市のアナウンスを使ってはどうか。探している人の特徴などを知らせれば、声もかけやすいと思う。
- ・田無警察のメールによる情報発信は有効だと思う。
- ・軽度の認知症でも安全な暮らしは難しくなり、結果的に在宅のままでは常に誰かの見守りが必要となる。認知症高齢者への支援を重点的にお願いしたい。

◇介護保険料について

- ・介護保険料が高過ぎる。

◇介護保険サービスについて

- ・デイサービスの料金が高額（サービスの日数を考えてしまう）。
- ・デイサービスの質が、事業者によってかなり異なると聞く。市でレベルの底上げをするようなチェック体制はあるのか。

◇施設整備について

- ・年金暮らしの人でも入れるような施設を多くつくってほしい。

◇介護人材について

- ・介護人材の育成（特に在宅ヘルパー事業の人材）は急務だと思う。
- ・福祉に従事する人の給料が、仕事の割に極めて低い。

◇医療について

- ・市から歯の健康診断の案内をもらったが、市内のかかりつけ歯科医が健診の対象外となっており、利用できなかった。市内の病院、クリニックはできる限り対象となるようにしてほしい。

◇移動手段について

- ・ボランティア的に、必要時に車を配車してもらえるなどのサービスがあると助かる。
- ・タクシー代の割引などがあれば助かる。

◇医療と介護の連携について

- ・病院と連携のとれた（できれば併設）、公的な介護施設を早急につくってほしい。

◇介護者への支援について

- ・介護も大切だが、同時に介護者への支援も大切だと思う。

◇世代間交流について

- ・保育園児との交流は聞くが、まだまだ少ない。小学生と高齢者の交流が頻繁にあればいいと思う。介護したり、介護されたりが当たり前を受け入れられる社会になればと切に願う。